

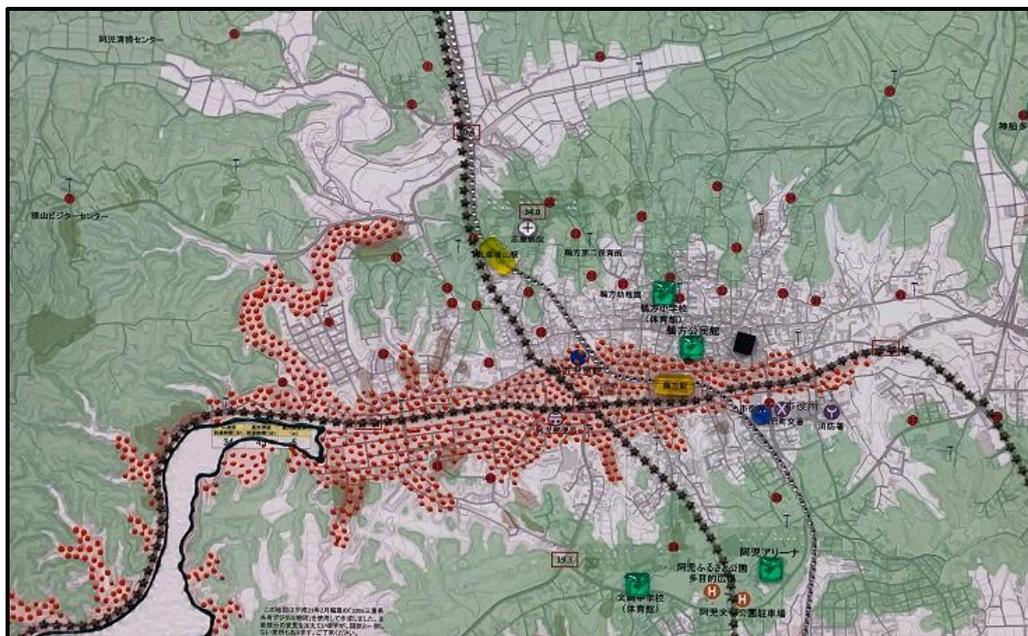
# 触るハザードマップ作製の手引き

令和8年1月

福岡県防災危機管理局消防防災指導課

## 「触るハザードマップ」作製の目的

「触るハザードマップ」は、視覚障がいのある方がお住いの場所の災害の危険性について、“気づき”、正しく“理解”し、いざという時に的確な“行動”ができるように作製するものです。



出典) 志摩市津波ハザードマップ (作製: 萩野茂樹氏)

避難所の位置や浸水想定区域が触ってわかるように工夫がされています。

## 期待される成果

「触るハザードマップ」の作製は、視覚障がいのある方が、災害を考える“きっかけ”となります。

お住い場所の周辺の環境を正しく理解し、平時と災害時をつなげることに繋がります。

個人での作製だけではなく、ワークショップや研修会での作製も有効です。

### ここがポイント!!

- ・「触るハザードマップ」の作製を通じて、お住いの場所の周辺の災害リスクを正しく理解し、災害の種別に応じた適切な行動を考えることが大切です。

## 準備・企画

作製補助者（家族・自治体職員・社会福祉協議会・福祉事業者・自治会・民生委員など）となる方が、「触るハザードマップ」の目的・作製方法を把握する。

### ここがポイント！！

- ・「触るハザードマップ」の作製は、視覚障がいのある方に対し、1～2名の作製補助者がペアとなって作製します。
- ・作製する方の普段の生活状況や周辺の状況を知っている方が補助者となることが効果的です。

## 作製に必要な物品

はさみ、木工用ボンド、ペン、毛糸、ラインシール、コルク、両面テープ など



※ 上記の購入品は、全て100円均一店で購入しました。

### ここがポイント！！

- ・毛糸やシールなど、作製する方の好みに合わせたものを準備しましょう。

## 作製方法

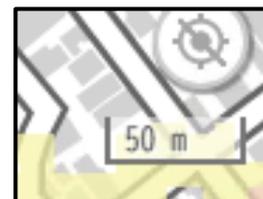
### ① 自宅周辺の地図の準備

自宅と避難場所が入っている地図を準備します。



この地図は、自宅周辺の洪水浸水想定区域の状況がわかるように、国の「重ねるハザードマップ」を使い準備しました。

「重ねるハザードマップ」を使うと地図の右下に地図の縮尺が表示されます。



参考) 「重ねるハザードマップ」

全国どこでも洪水や土砂災害など、個々の防災情報を重ねて閲覧できるよう、国土交通省が開設したウェブ地図サイト

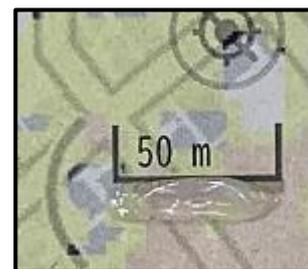
### ここがポイント！！

- ・「触るハザードマップ」は、お住いの場所の周辺の災害リスクや避難経路を考えるものであるため、**自宅、避難所を中心とした地図**を準備します。
- ・災害リスクを知るために、市町村が作製したハザードマップや、国の「重ねるハザードマップ」を活用しましょう。
- ・人によって、色の見え方が異なるため、「重ねるハザードマップ」よりも「Googleマップ」などの方が使いやすい場合があります。

## ② 主要道路や地図の縮尺をボンドで塗り、凹凸をつける

国道や県道などの主要道路を木工用ボンドで塗り、乾かして、凹凸をつけます。

地図の縮尺を木工用ボンドで塗り、乾かして、凹凸をつけます。



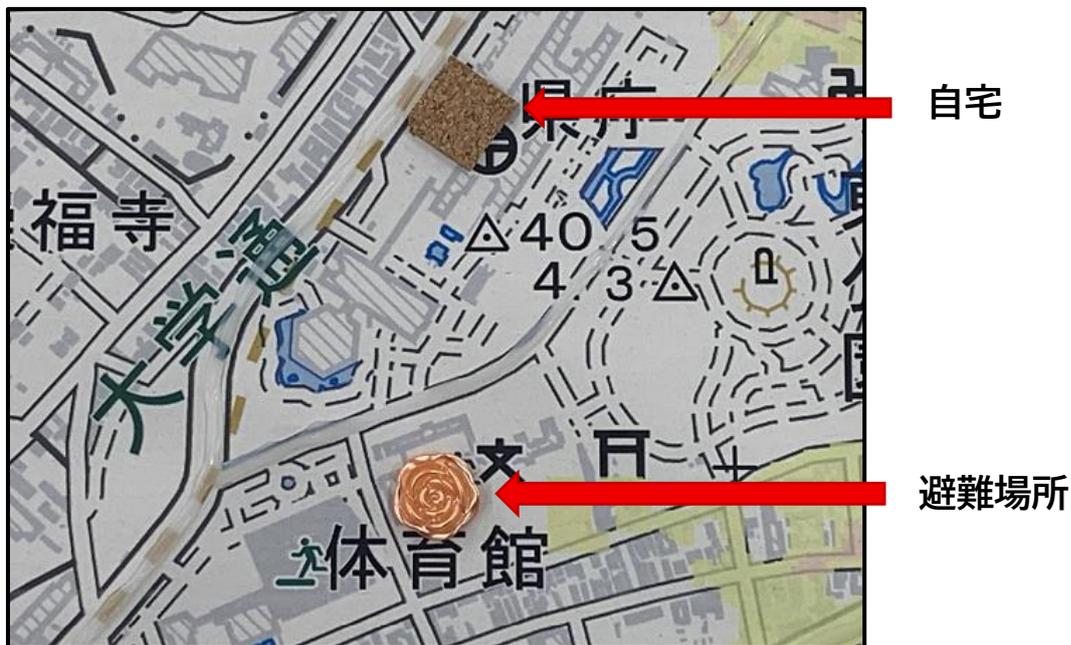
### ここがポイント！！

- ・地図の縮尺を触ってわかるようにすることで、避難場所までの距離を考える目安となります。
- ・主要道路にはボンドを、河川に毛糸を貼るなどの工夫が考えられます。

### ③ 自宅と避難場所にシールを貼り、印を付ける

自宅と災害が起きたときに避難することとなる場所に、それぞれ異なるシールを貼り、印をつけます。

写真では、自宅にコルクを、避難所に指定されている小学校に花型のシールを貼りました。



ここがポイント！！

- ・避難する場所は、指定避難所だけではありません。実際に災害が起きたときや予想される時に避難する場所にシールを貼ります。  
(例：知人、親戚宅、公民館、コミュニティセンター など)
- ・自宅や避難所の近くに「点字シール」を貼る工夫が考えられます。

#### ④ 自宅から避難場所までの経路にラインシールを貼る

自宅から避難場所まで移動する経路にラインシールを貼ります。

③で貼ったシールとは別のシールを貼りましょう。



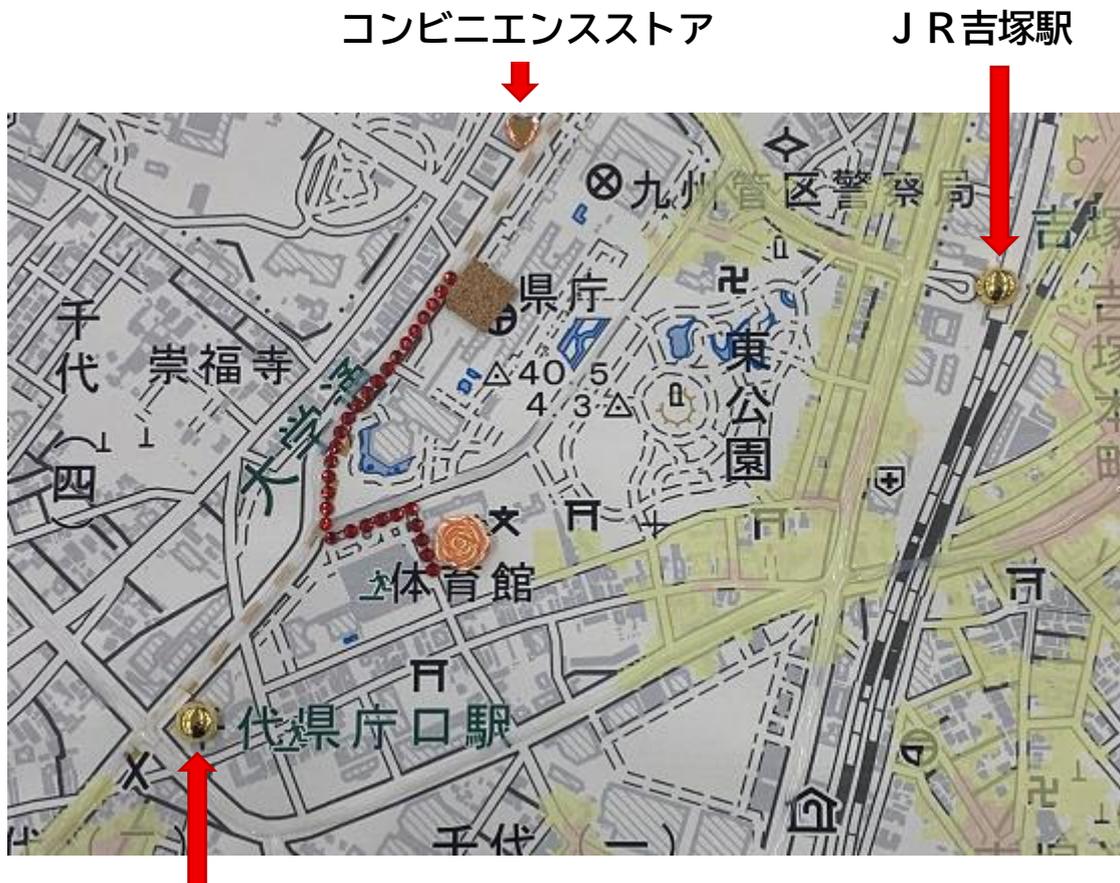
避難経路

#### ここがポイント！！

- ・避難する経路に浸水想定区域がないか、道幅や歩道があるかなど補助者と話し合しましょう。
- ・どのような災害を想定して避難する経路を考えるか、補助者と話し合うことで、災害についての理解が深まります。

## ⑤ 駅など目印となる場所にシールを貼る

駅、郵便局やコンビニエンスストアなど、目印となる場所にこれまでと異なるシールを貼ります。



市営地下鉄 千代県庁口

# これで完成です！！

### ここがポイント！！

- ・視覚障がいのある方と補助者が、どのような場所にシールを貼り目印とするか、よく話し合うことで災害時に気を付ける場所を考えることにつながります。
- ・交差点、音が鳴る横断歩道などもシールを貼る場所として考えられます。
- ・シールを貼りすぎると重要なところがわからなくなるため、貼りすぎないことに注意してください。

## 「触るハザードマップ」を作製した視覚障がいのある方の感想

(令和7年12月7日に福岡県久留米市で実施したワークショップの際の事例の感想)

- Aさん：  
・「触るハザードマップ」の作製を通して、避難所がどこにあるかイメージができた。  
・今後、避難所まで作製した経路を使って歩き、どれくらい時間がかかるか確かめたい。
- Bさん：  
・自宅の周りが浸水想定区域の外ということがわかり、安心した。  
・避難経路は、地震を想定して作製した。
- Cさん：  
・避難所の前をいつも通っているので、わかっているつもりであったが、地図を作ってみると位置関係が自分の想像とズレていた。  
・自宅と避難所周辺の位置関係がよくわかった。
- Dさん：  
・避難所までの経路を再確認できた。
- Eさん：  
・市が指定する避難所まで遠いので、近くにある公民館を避難先に選んだ。
- Fさん：  
・自宅のまわりは全て浸水想定区域となっている。  
・「触るハザードマップ」を作製する中で工夫した点は、地域の中で一番最初に浸水が始まる場所(避難スイッチとなる場所)に印を付けたこと。
- Gさん：  
・自宅が浸水想定区域の外にあるため、地震を想定して作製した。  
・道が狭い最短経路ではなく、大きな道路を通る道を避難経路に選んだ。  
・工夫した点は、信号機がある場所にシールを貼ったこと。